

第2回 尼崎市総合計画審議会 第1分科会

【議事要旨】

日時	令和3年8月26日(木) 18:00~
開催場所	ZOOMによるWEB会議
出席委員	川中委員、武本委員、久委員、堀田委員、八木委員、小森委員、原田委員、古川委員、青田委員、中西委員
欠席委員	なし
事務局	中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員、関係局職員

1. 開会

- 資料の確認
- 議事要旨署名委員の指名
川中委員、八木委員

2. 第6次尼崎市総合計画 施策別の取組（各論）について

【施策3 学校教育】

(委員)

施策目標、展開方向と代表指標とが合致しない。「他者と協働しながら」に対する指標になっていない。尼崎が独自でとっている指標でよいものがあればそれを設定してはどうか。

(委員)

現状のところで記載の「不可欠である」「必要である」という表現は、課題ではないか。

(分科会長)

事務局からはどういう庁内調整をしているのか。

(事務局)

語尾の統一など全体的なバランスはとれていない状況である。事務局からのアナウンスとしては、現状及び課題について、尼崎特有のものを中心とした記載を依頼している。

(分科会長)

全体を通して現状と課題がうまく切り分けられていない。現状のパートでは、尼崎の特徴的な取組のPRが書かれるべき。その取組を進めたことによる成果などプラスの内容を付け加えると方向性が見えてくる。一方で、課題は課題として残されているもの、あるいは次のステップとして解決すべきものを集中的に書いていくことで、現状と課題が書き分けられる。全体を通して調整していただきたい。

課題の語尾が「課題である」という表現がなく、課題の内容を的確に表せる表現に統一しておくべきではないか。調整いただきたい。

(委員)

子どもへのきめ細やかなフォローが課題としつつ、教員の働き方改革を推進するという内容に矛盾を感じるので、働き方改革の推進を進めつつ、あらゆる手段を講じてきめ細やかな対応をするという表現に修正すべきではないか。

(学校教育課)

子どもたちに対してどのようなフォローをしていくのかということを経後の課題として記載している。教員の働き方改革は超過勤務の抑制などの改善であり、子どもたちへのきめ細やかなフォローとは別問題であると考えている。

(分科会長)

教員の働き方改革を進めるには、①本来学校の先生がすべきでない業務をしていることから、それらの業務を地域の方々を含め他者に担ってもらい、本来業務に注力すること。②効果的・効率的に業務をする。この2つの対応が必要。

現在の書きぶりでは抽象度が高いので、方向性や取組がわかるように、もう少し具体的に展開方向の記載をお願いしたい。他施策においても、展開方向の抽象度が高いので、全体的な統一をお願いしたい。

(委員)

ICT活用の推進は学校現場だけではない。限定しない方がよい。

(委員)

代表指標1で学習状況調査のことを記載しているということは、尼崎市として学力が課題であるという認識だと思うので、現状と課題にこのことを記載すべきではないか。

(委員)

代表指標2つめは「考えることがある」というよりは、行動レベルの指標が望ましい。

代表指標1、2に共通して、小・中はこれでとらえられるが、高校生の進捗状況を測るものがないのはどうか。

子どもの貧困は日本全体でも尼崎でも大きな課題。展開方向②に経済状況によらず、子どもが多様な学習経験、文化経験ができるような公的サポートをする仕組みを考えていかなければならないと思う。この観点に触れておくべきではないか。

(分科会長)

すべての人に質の高い教育が提供できるということ、どのように保障するかという観点で検討していただきたい。

【施策2 人権尊重・多文化共生】

(委員)

課題の2点目、「人権を〜『大切な』条件として、」という表現があるが、「不可欠」という言葉を使うなど、より重要性を増した強い表現にする必要があるのではないか。

(委員)

外国籍の方への対策を現状と課題にも記載していただきたい。

(分科会長)

展開方向が包含的な書きぶりなので、もう少し具体的な方向性やここが柱であるというような文言をつけていただくと、より分かりやすくなるので工夫していただきたい。

また、人権文化いきづくまちづくり計画の中で、事業者への人権啓発があったと思うが、どこで読み取れば良いのか。

(ダイバーシティ推進課)

展開方向①地域における人権尊重の取組に包含している。

(分科会長)

地域という表現では、地域住民と捉えてしまう。事業者数の多い尼崎市ならではの記載（就労環境や就業などにおける人権尊重・多文化共生の観点）になれば、尼崎らしさが出てくるのではないか。

(ダイバーシティ推進課)

書きぶりについては、経済分野との書き分けもあろうかと思うので、そのあたりを含めて検討して調整する。

(委員)

展開方向②の中で、「性の多様性」と「男女」と限定した表現が共存していることはどうか。今後も残していくのか。

(ダイバーシティ推進課)

今年度、第4次男女共同参画計画を策定中で、この件も審議中である。知名度の面から男女共同参画という言葉を残そうとしている。ジェンダーという言葉を使ったサブタイトルも検討している。男女という言葉がなくし、性の多様性としてしまうと、女性特有の課題に対するイメージが薄れてしまうデメリットもあると考えており、あえて残している。

(委員)

各論については、現状、課題、目標とあり、その目標の進捗を測る指標ということである

が、全施策にわたってストーリーに不整合が生じていると思うので全体的に見直しをお願いしたい。指標は意識で評価を取ることも、事実ベースで指標を取るべきではないか。

(委員)

現状の4つめ、「厳しい状況」という表現は不要では。構成として、目標、指標、現状、課題の順より、現状、課題、目標、指標の方が流れとしてしっくりくる。

(委員)

施策目標について、消極的な表現になっており、高い水準で人権保障について捉えていくという視点で記載したほうがよいのではないか。

代表指標は違和感が大きい。結局一人一人の個人の意識の問題に落とし込んでしまっていることが問題。必要な社会環境の整備がどう進んでいるのかという視点で指標を検討することが必要では。

現状と課題における、ジェンダー不平等の部分は日本ではかなり遅れているので、これを見えるように表現すべき。ジェンダーと性の多様性とは切り分けてそれぞれ表現すべき。

展開方向でみると、結局は個人の学習と意識啓発の文脈にしかみえない。もっと社会環境整備の視点が書き加えられるべきと考える。

(分科会長)

展開方向の具体性が増せば社会環境の整備の部分も解消されるのでは。

また、展開方向③学校園における人権教育では、人権教育だけの問題なのか。多文化共生の面から、例えば外国籍の方への教育環境の整備も必要ではないか。

(委員)

展開方向③学校園等における人権教育とあるが、そもそも学校園自体が人権保障をできているかどうか。例えば、外国籍住民の問題だけでなく、インターナショナルスクールや朝鮮人学校などの非一条校は一条校と同様に人権が保障されるような制度があるのかという課題が全国的にはあるので、そういった課題にどう向き合っていくかというような意思を総計に出していけるといいと思う。

(分科会長)

施策名からも多文化共生の内容が半分くらい出てくれば良いと思う。

【施策1 地域コミュニティ・学び】

(委員)

展開方向①で尼崎らしさという視点で、みんなの尼崎大学がここに入るべきではないか。

キーワードに入っている「学びと活動の循環」がもう少しわかるように具体的な記載にしたほうがよいのではないか。

(生涯、学習！推進課)

展開方向①の2つめに包含されている。表現は検討する。

(分科会長)

みんなの尼崎大学はいつでもどこでも学ぶことができることが特長。生涯学習施設の中で閉じこもるのではなく、いろんなところで学びの場が展開され、そこに参加することによって意識が高まり、活動につながっていくというストーリーが2つめの書きぶりから伝わってくると思うので、文言の検討をお願いしたい。

(委員)

代表指標の2つめで、これで何が測れるのかがわかりにくい。工夫が必要。

(分科会長)

他都市では、市民意識調査の中で、積極的に社会に関わる層か、受動的な層かという項目を設定し、積極層を増やしていくことを一つの指標としようとしているところもある。

(委員)

マスタープランなしはこれでよいのか。

(事務局)

計画はないが、「自治のまちづくり条例」を色濃く反映させている。記載方法については意図がわかるよう検討する。

(委員)

展開方向①3つめ、学校教育と社会教育の連携という大きなくくりだが、もう少し具体的にわかりやすい表現が追加できればよい。

(社会教育課)

学校教育の中で、地域の方など多様な方に関わっていただき、その関わった人の学びにもつながる。互いの学びが循環するという意味合いで記載している。

(分科会長)

一人の人間として生涯学び続けていくという学校教育と社会教育の連携の意図は入っているのか。

(社会教育課)

入っている。

(分科会長)

であれば記載内容が不足しており、記載方法に工夫が必要であると考えます。

(社会教育課)

記載方法について検討する。

(委員)

代表指標①は活動指標として測るべきだと思うが、「身近な地域活動」をどう定義するのか。「市民活動」を付け加えるなど、表現に幅を持たせた方がよいのでは。

代表指標②はよくわからない。学んだ人が現場でどう活動しているのかという視点で表現したほうがよいのではないかと。

現状・課題で、地域の担い手が不足している、組織化が進まなくなっているという記載がないのは楽観的に見える。尼崎市では、社協が地域において大きな役割を担っているが、中期的に見た場合、全体的な傾向として厳しい。

展開方向①で、高等教育の拠点（地域資源）を活かした協働の視点を盛り込むなど、大学の地域の連携・協働をイメージできる表現にした方がよいのでは。

キーワードに「生涯、学習！」があるが、一般用語ではないので、記載するのであれば注釈が必要になるのではないかと。

(分科会長)

多様なネットワークという言葉が、文化振興にだけかかっている。地域コミュニティ・学び分野すべてに多様なネットワークは関連していくと思う。施策1の分野の分け方がこれでよいのかどうかを含めて、違う観点から検討してもよいのでは。

(協働推進課)

地域コミュニティを活性化する取組の中で、多様な主体のネットワークは重要な点と認識しており、展開方向①にもそのような意図を含めている。表現については調整・検討していきたい。

(分科会長)

尼崎では様々な人が市民活動を行っており、それらが有機的につながればもっとよくなると思う。そこがよくなれば、力が合わさっていくと思うので、そういった意図で現状と課題、展開方向へつなげてほしい。

(委員)

課題の1つ目の表現について、市の市民への寄り添い方の記載となっていて、違和感がある。また、SDGsとの連携を示す部分の色が少し見づらい。もう少し工夫をしてほしい。

(委員)

地域コミュニティは様々な分野に関連するものであると思うが、コミュニティ力は弱まってきたと感じている。そのあたりは市としてどのように認識しているのか。

(協働推進課)

尼崎のコミュニティの成り立ちや、現状、課題は認識している。今回のレイアウトに落とし込む中でブラッシュアップしてこれから取り組んでいくことの記載に重きを置いている。

(分科会長)

これから様々な社会問題に対応していくときに、協働を進めていくことになると思うが、その重要なパートナーは地域の方々である。地域コミュニティはすべての分野の基礎となるので、地域コミュニティを強化することは全ての分野の基礎を作っていくという記載があってもよいのでは。

生涯、学習！推進課は、地域コミュニティの強化を支援する位置づけであると認識しており、地域の方々と行政が地域でパートナーシップを結ぶために生涯、学習！推進課がマネジメントを行い、各地域課が基礎になって総合的に協働の体制をとっていると思うので、現状、課題、展開方向のどこかでそのあたりに触れることで尼崎の特長が出るのではないかと。

(委員)

展開方向②で、文化だけ若者支援をするように映るが、全部に関係するのでは。見せ方を検討してほしい。

(分科会長)

展開方向③をまちづくり全体に広げられないか。今のままだと、従来型の文化財行政に見えてしまう。まちづくりのベースとして、きちんと地域の歴史を知ることや地域の歴史資産を使いながらまちづくりを展開するなどそのような方向性にできないか。市民とともに歩む博物館と書いてしまうと、博物館の運営に市民が関わっていくと捉えられる。逆に博物館を核としながら市民活動やまちづくりに広がっていくという記載にできないのか。

(歴史博物館)

改めて展開方向を見た時にご指摘のとおりだと思います。博物館の運営についてもボランティアなど市民とともにやっているが、それに加え、博物館の文化財の保存活用、普及だけでなく、調査研究など将来を見据えた書きぶりにしていたつもりであった。もう少しわかりやすい表現になるよう書きぶりについて引き続き検討する。

(分科会長)

歴史博物館にとどまらない書きぶりがほしい。景観保全の問題や、地域づくりを進めていくなかで地域の歴史を認識しながら、まちづくりを地域の方々が担っていくということも含

めて幅広の書きぶりにしていきたいと思います。

(委員)

地域の伝統を活かしたまちづくりという観点があれば活動が広がりやすいのではないかと。

(分科会長)

公害を克服してきた歴史なども含め、多様な広がりをもてるよう再検討してほしい。

以 上